



平成 28 年 9 月 20 日

広島大学研究拠点の認定について

—新たに研究拠点（自立ステージ）2 件、インキュベーション研究拠点 4 件—

本学は、平成 25 年度文部科学省「研究大学強化促進事業」に 22 機関の 1 つとして研究大学に選定され、世界トップレベルの研究大学となるべく、多様な研究成果を教育、社会貢献、産業活性化・イノベーションに直結させ、人類の未来社会に貢献することを目的とした研究力強化に取り組んでおります。この研究力強化の取組の一つとして「世界的研究拠点の継続的創出」が挙げられます。

これまで、本学の特長となる研究分野で優れた教育研究実績を有し、既に外部資金により自立して研究活動を継続している研究グループであり、長期的に本学の顔となることを期待できる「研究拠点（自立ステージ）」を 4 拠点、および中長期的に研究拠点（自立ステージ）を目指す研究者（分野）のグループである「インキュベーション研究拠点」13 拠点、合計 17 の拠点を認定しておりますが、広島大学が世界トップクラスの研究大学として、国際展開力・発信力をさらに強化していくため、新たに 6 つの拠点を認定いたしました。

認定された研究拠点には重点支援を行い、特に、活発な国際研究活動を通じた国際研究ネットワークの形成により国際発信力を向上し、本学の国際的評価の飛躍的な向上に寄与することを期待しています。今後、総合研究大学の強みを生かし、多様な研究拠点を形成するとともに、国際研究ネットワーク形成により、多様な人材が活発に活躍する場として発展し、教育研究活動を通じて、国際社会、地域社会において存在感のある大学へと展開することとしています。

【お問い合わせ先】

学術・社会産学連携室

研究企画室 小左古 学

TEL:082-424-5860 FAX:082-424-4592

世界トップクラスを目指す研究拠点(平成28年選定)

世界のトップクラスの研究大学になるためには、国際展開力・発信力を強化していく必要があります。その中心的役割を担う6つの研究拠点を新たに選出しました。

(インキュベーション拠点(4拠点))

医療経済研究拠点

拠点リーダー 角谷快彦(社会科学研究科)

研究分野 人文・社会・教育

活動内容

人口高齢化の急速な進行を背景に、経済学研究グループと医療研究グループによる融合研究を通じて、アジアハブとなる日本発の医療経済学研究拠点を形成し、効率的で公平性の高い「医療・介護の供給の実現」に貢献する。

エネルギー超高度利用研究拠点

拠点リーダー 西田恵哉(工学研究院)

研究分野 理・工(材料系)

活動内容

現在、エネルギー資源を持続可能な形で環境負荷なく利用するエネルギー超高度利用技術に対するニーズが高まっている。エネルギー超高度利用研究拠点は燃焼技術を基盤とし、その高効率化・持続可能化・クリーン化を推進する。

創発的物性物理研究拠点

拠点リーダー 木村昭夫(理学研究科)

研究分野 理・工(材料系)

活動内容

「物質の新しい相の創出とその微視的機構の解明」を目標として掲げ、「新物質開発」「先端物性計測」「放射光精密結晶構造解析」「放射光精密電子構造解析」を4つの柱として、本学の強みの一つである「超伝導、磁性、トポロジカル物質の分野を中心とする物性物理学」の世界トップクラスの研究を推進します。

機能性ナノ酸化物研究拠点

拠点リーダー 定金正洋(工学研究院)

研究分野 理・工(材料系)

活動内容

ナノメートルの領域で酸化物の構造およびサイズを高度に制御する手法の開発から機能(応用)開発までを行うことで、広島大学の機能性ナノ酸化物研究を日本を代表し世界をリードする研究に発展させ、持続的で平和な社会の実現に貢献する環境・エネルギー技術の新基軸を担う研究拠点を形成する。

(研究拠点(自立ステージ)(2拠点))

窒素循環エネルギーキャリア(Nキャリア)研究拠点

拠点リーダー 小島由継(先進機能物質研究センター)

研究分野 理・工(材料系)

活動内容

世界トップレベルのアンモニアを用いた水素エネルギーキャリアの研究を通して、国際研究拠点の構築やシステム実証を行い、水素社会の実現と窒素循環科学の創出を目指す。

うつ病の革新的診断・治療法開発研究拠点

拠点リーダー 山脇成人(医歯薬保健学研究院)

研究分野 医療系

活動内容

精神科医、脳科学研究者、計算神経学者等から構成される融合的研究組織を結成し、うつ病患者における血液バイオマーカー、脳画像解析データ、臨床情報などを機械学習を用いて統合的に解析し、革新的診断法の確立を目指すとともに、異常な神経回路活動を効率的に患者自身が是正する革新的なニューロフィードバック治療法の実現を目指す。